

モノづくり文化交流拠点構想

< 概要版 >

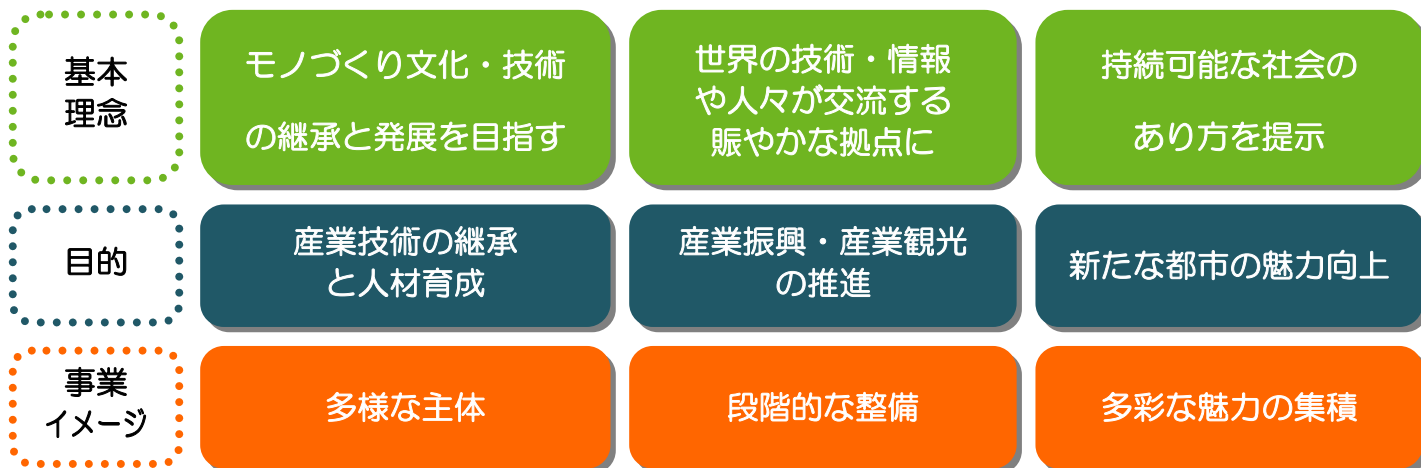
名古屋市

～モノづくり文化交流拠点構想～

名古屋市では、“モノづくり文化”を発信・継承するため、「産業技術」をテーマとして人々が交流する拠点の創出（「モノづくり文化交流拠点構想」）を、名古屋港金城ふ頭において計画しています。その構想の内容について、紹介します。

構想の考え方

わが国のモノづくり産業を支える名古屋がリーダーシップを発揮し、“モノづくりの文化・技術”を持続的に発展させます。



金城ふ頭周辺の状況

黄色の線で囲んだ「モノづくり文化交流拠点全体エリア」は、約 60 ヘクタールあります。その中で、赤い線で囲んだ「モノづくり文化交流エリア」を中心として、構想のテーマ展開を図っていきます。

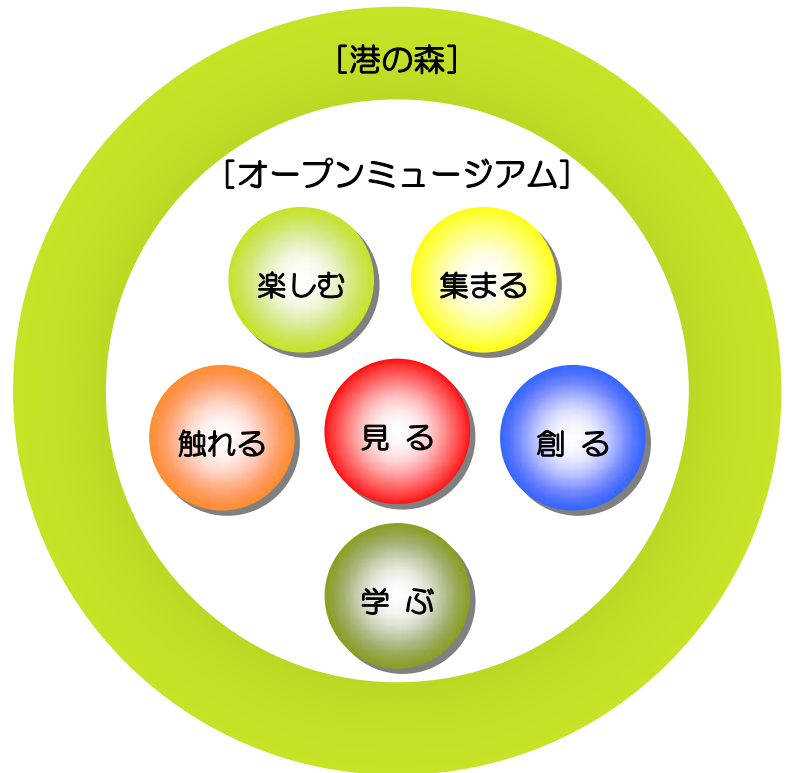


導入する機能

モノづくり文化交流拠点では、緑あふれる港の森の中で、世界の技術・情報や人々の交流で賑わう参加・体験型のオープンミュージアムとし、「楽しむ」「集まる」「見る」「創る」「触れる」「学ぶ」の要素の効果的な展開を目指します。

「入口は楽しみ・遊び、 出口は学び」

楽しさ、遊びをきっかけとして、人が集まり、モノづくりを見て、触れて、創るなどの体験を通して、モノづくりのすばらしさや大切さを感じられる拠点とします。



広域展開

金城ふ頭を核に、モノづくり現場やガーデンふ頭、中部国際空港、各種既存施設、藤前干潟などとも連携した展開を考えていきます。また、金城ふ頭に港の森を創出することにより、東山の森づくりや西の森づくりなどと連携して、名古屋市の環境への取組みを発信します。

< 広域展開のイメージ >



事業展開のイメージ

方向性とイメージ

<方向性>

空間としてのミュージアムの発想

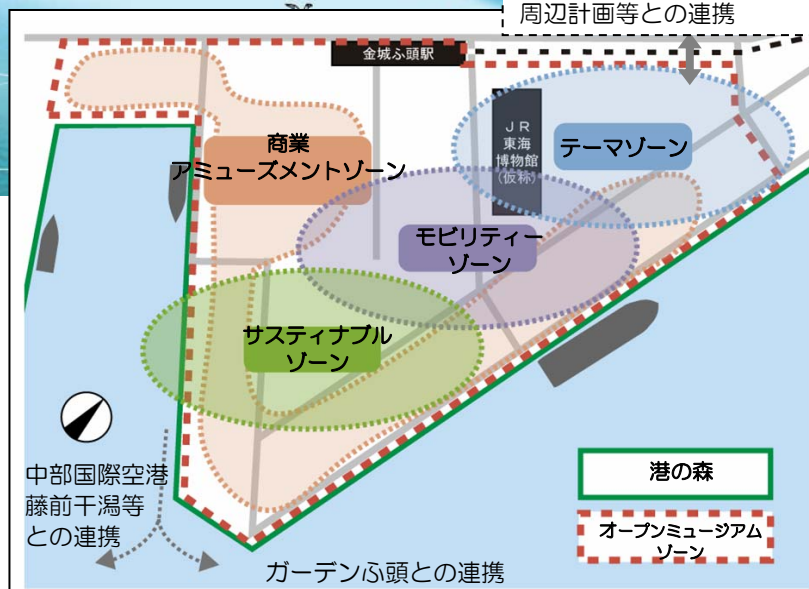
水際と一体となった港の森づくり

他施設・周辺の開発計画との連携



モノづくり現場、各種既存施設、
周辺計画等との連携

<イメージ>



展開テーマ

I 港の森づくり

II 幅広い世代への発信

III モノづくりの足跡とドラマ

IV 未来の生活体験と想像工房

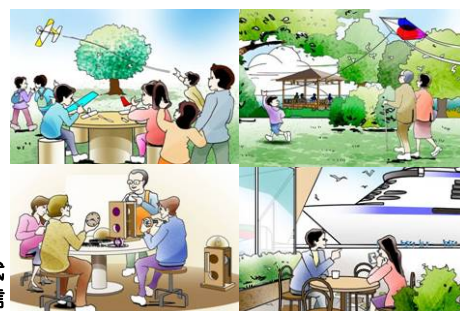
V 技術の継承と人材育成

VI 交流と賑わいの創出

VII 空間としてのミュージアム



港の森づくり



幅広い世代
への発信

ア モビリティゾーン

この地域に根ざした陸・海・空の乗り物技術を楽しみながら体験でき、乗り物の歴史、進歩に親しむことのできる場を展開します。

- ＜展開イメージ＞
- 陸・海・空の乗り物の仕組みや不思議
 - エコモビリティ体験
 - 次世代モビリティ
 - モビリティ体験スタジオ
 - 乗り物の歴史、進歩
 - 各種ロボット

◆JR東海博物館(仮称)



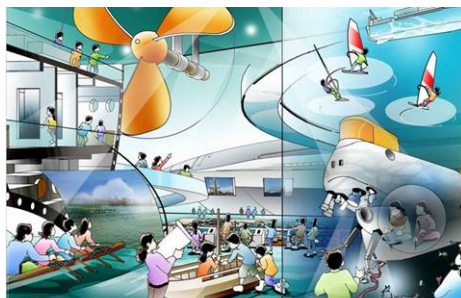
◆陸（クルマ）ミュージアム

クルマの作り方や仕組み、歩行アシストロボットなど、未来のクルマ技術を楽しみながら体験できます。



◆海（船舶）ミュージアム

船舶の操舵や深海探査などを通して、船の仕組みを楽しみながら、体験できます。



◆空（航空・宇宙）ミュージアム

揚力体験や組立てワークショップなどを通して、飛行機の仕組みや原理などを楽しみながら体験できます。



◆モビリティ体験スタジオ

- ・シミュレーターライド
シミュレーターの操作により、乗り物の楽しさを疑似体験できます。

- ・様々な乗り物体験
未来の乗り物など、多彩な乗り物体験ができます。



◆エコモビリティ体験

ソーラーカーや電気自動車、ヘンテコ自転車など、環境に優しい乗り物を体験できます。

◆乗り物の歴史、進歩

江戸時代の籠から高速鉄道技術まで、乗り物の歴史や進歩を紹介します。



イ テーマゾーン

次世代を担う子どもたちが、モノづくりの歴史や文化を楽しみながら体験できる場を展開します。

<展開イメージ>

- 自然の叡智から学ぶモノづくり
- 子どもモノづくり体験、市民協働匠工房、セミナールーム、モノづくり市民村、交流サロン、ギャラリー、催事場
- モノづくりの系譜
- モノづくりのデザイン・色彩など感性価値の創造
- 人やモノの「流れ」から見たモノづくりの歴史

◆自然の叡智から学ぶモノづくり
モノづくりの原点が自然から学んだ技術であることを実感できる広場を創出します。

◆子どもモノづくり体験

- ・匠ふれあい工房
子どもたちが匠の技に触れることによって、モノづくりの面白さに出会えます
- ・ロボットワークショップ
ロボットキットの組立などを通じて、ロボット技術を楽しみながら体験できます。



ウ サステナブルゾーン

持続可能な社会に向けての取り組みや、最新の環境技術を発信する場を展開します。

<展開イメージ>

- 環境技術の展示、体験
- 子どもエコワークショップ
- 下水汚泥のエネルギー化
- バイオエネルギーで植物工場都市菜園
- アーバンデザインセンター

◆環境技術の展示・体験

太陽光発電や風力発電など、最新の環境技術とその応用を、実際に体験できます。



◆子どもエコワークショップ

子どもたちが自然の恵みに触れ、環境について楽しみながら体験学習できます。



エ 商業アミューズメントゾーン

海・港を活用した賑わいと楽しさのある商業施設として、飲食や物販施設などを複合的に展開します。

<展開イメージ> ●伝統工芸品や特産品の直売 ●シーサイドレストラン、オープンカフェ
●テーマレストラン ●駅前広場のイメージアップ



◆伝統工芸品や特産品の直売
匠がつくった工芸品や特産品をその場で買うことのできる場を展開します。

◆シーサイドレストラン
名古屋の食文化をテーマとするなど、シーサイドレストランやフードコートを展開します。



オ オープンミュージアムゾーン

水と緑があふれる港の森の中、エリア全体を空間ミュージアムとしてとらえ、展開します。

<展開イメージ> ●自然広場 ●市民参画による植樹
●観光ツアー拠点とエコシップ ●海からのウェルカムゲート
●産業観光コンシェルジュデスク ●水と緑の「里海」復活プロジェクト



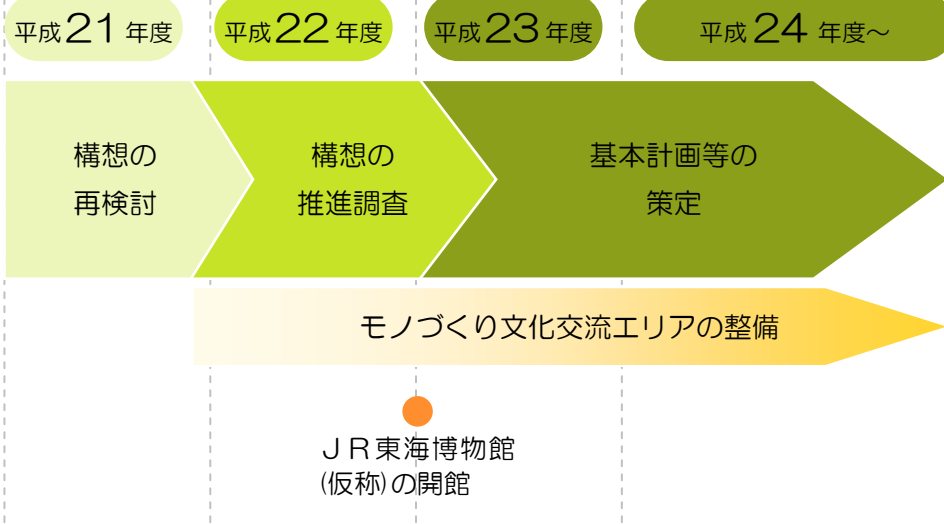
◆自然広場
水と緑があふれる港の森の中で、食事や休憩、イベントのできる場を展開します。

◆市民参画による植樹
市民参画の植樹などを通じて、自分の成長とともに森の成長を感じられる場を展開します。



スケジュール

本市としましては、企業等に参画を呼びかけながら、右記のようなステップで、詳細な検討を進め、構想を実現してまいりたいと考えています。





企画・編集
名古屋市総務局

〒460-8508 名古屋市中区三の丸三丁目1番1号
TEL(052)972-2232 FAX(052)972-4112
E-mail monozukuri@somu.city.nagoya.lg.jp
URL <http://www.city.nagoya.jp/shisei/sougou/mono/>

発行年月
平成22年6月